

第 69 回 東海財界倶楽部例会

スタートアップで外部と協業し、 新たな価値を生み出す

中部財界フォーラム社の異業種交流会「第 69 回東海財界倶楽部」は令和 8 年 4 月 22 日、名古屋市中区のアイリス愛知 2 階 大会議場コスモスで開催された。この日、佐橋宏隆（さはし・ひろたか）STATION Ai 株式会社代表取締役社長兼 CEO が講師を務め、「STATION Ai がつくる愛知の未来」の演題で、スタートアップやオープンイノベーションの現状や AI 黎明期における世界と日本、STATION Ai の役割などを解説。参加した企業経営者ら約 30 人が熱心に聞き入った。



STATION Ai 株式会社
代表取締役社長兼 CEO 佐橋宏隆氏

佐橋社長は三重県桑名市の出身。2016 年にソフトバンク株式会社に入社後、様々な部署で活躍。2021 年 9 月から STATION Ai に出向、代表取締役社長兼 CEO として愛知のスタートアップを牽引している。

佐橋社長は、日本にとってなぜ『スタートアップ』が必要なのかについて、「かつて日本は製造業で世界をリードしてきた一方で、この 30～40 年間成長が停滞」していたことを問題視。その中で「アメリカや中国がビックテック（米＝メタ・グーグル・マイクロソフトなど、中＝バイドゥ・アリババ・テンセントなど）といわれる企業を数多く輩出していたが、日本は製造業に依存、次の新産業への投資を官民でやってこなかった」と指摘。「現在、AI が新たな変革期を牽引している中、日本がこの AI に強力に投資して来なかった」事が現状の差となり、危機感を抱いていると言う。

フランスの STATION F とする世界最大のスタートアップの拠点をモデルに愛知版として STATION Ai が 2024 年 10 月に開業。現在は「スタートアップ会員 700 社、スタートアップ以外の様々な事業会社中心に 400 社、計 1000 社を超える会員規模の拠点になった」と現状を報告。

STATION Ai が支援してきたスタートアップの事例として「トマト農園でトマトの収穫をするロボット」や、「段ボール製の非常に安価なドローンを開発」を紹介。また「大学の研究開発の成果を社会実装するための支援も行っている」



STATION Ai 佐橋宏隆氏の講演に耳を傾ける倶楽部会員

ことを報告。

さらに「スタートアップにおけるオープンイノベーション」について、「自社だけで新たな事業を見直すのではなく、外部の技術やアイデアを積極的に活用し、外部との協業で新たな価値を生み出す」というような「資本提携に至らなくても技術提携、販売提携、生産提携の関係」の取り組みが重要であると言う。

現在の生成 AI については「2022 年 11 月 30 日に登場したチャット GPT3.5 が世の中に登場、単純なテキストの生成から高度な推論ができるようになったり、画像生成から動画の生成へ。2025 年に AI エージェントのソフトウェアが開発されると、人を介さずに実務を完遂できるようになり、全社会的な運用効率の実現が可能な時代に入ってきた」と言う。

その一方で「製造業を捨てたアメリカが日本の製造業を非常に必要としていると言われており、これは愛知にとってチャンス。愛知県の製造業の面白い企業と、アメリカの国や民間の企業が協業するためのフィジカル AI の準備が今後必要」となり、「スタートアップで地域の製造業者の共通モデルを作り、地域の製造業の協業を実現したい」とこれからの目標を語って締め括った。

佐橋社長の講演のあと懇親会へ。乾杯の音頭は



駐名古屋大韓民国総領事館
鄭美愛（ジョン・ミエ）総領事

3 月 18 日に駐名古屋大韓民国総領事館に着任された鄭美愛（ジョン・ミエ）新総領事より賜る。「私は研究者出身ですが、AI の時代だからこのような対面的な集まりが大事」と話し「愛知県の未来と皆様に乾杯」と発し、参加者全員の杯が高く掲げられた。